

令和元年度 文京区立小日向台町小学校 授業改善推進プラン

第3学年

	指導上の課題	指導の在り方	授業改善の視点
国語	<ul style="list-style-type: none"> 相手や目的に応じて、話の中心に気を付けて話したり、聞いたりすることに課題がある。 文章を書くことに苦手意識がある児童が多い。 漢字を正確に読んだり書いたりする力に課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 相手や目的を意識し、話の中心に気を付けて話す・聞く力を付ける指導が必要である。 相手や目的を意識し、文章を書けるようにする指導が必要である。 学習した漢字を繰り返し練習する時間を確保することが大切である。 	<ul style="list-style-type: none"> 話すときは、声の大きさ、言葉の抑揚や強弱、間の取り方に気を付けて話すことができるように指導する。聞くときは、話の中心や大事な言葉に気を付けて聞くように指導する。話し終わった後に感想や質問を述べる活動を入れ、定着を図る。 まず文章メモを作ってから、安心して下書き、清書に取り組めるようにする。 新出漢字を学習する際に声に出して読む。熟語、文章中での使い方や書き順を丁寧に指導する。また、テスト前に家庭学習に取り組めるよう課題を出して定着を図る。
社会	<ul style="list-style-type: none"> 資料にある地図やグラフ等を読み取る学習に課題がある。 区の土地利用の様子を地形的な条件や社会的な条件と関連づけて考えることに課題がある。 新聞やポスターにまとめる際の情報活用の力が身に付いていない。 	<ul style="list-style-type: none"> 地図やグラフを見て特徴を捉えさせる指導が必要である。 地図や資料を有効に活用し、調べたりまとめたりする中で事象や人々の相互を関係づけて指導することが大切である。 どんな情報が必要かを考え、調べ選択することができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 方位、地図記号の定着を図るために授業の始めに、身体を使って方位を確認させたり、地図記号カードを使ったりして繰り返し学習する。 地図やグラフ等を読み取る学習をするときは、必要な情報を集め、読み取れるよう、指さし確認をしたり、印を付けたりしながら1つずつ確かめて指導する。 実際に見たり聞いたりしたことから学習の課題を立てていけるよう、話し合いの時間を十分に取る。 社会科の学習が実生活と結びついていることが感じられるよう、地域の学習環境や教材を生かし、学習計画を立てる。 ICT支援員、図書館司書と連携し、情報活用能力の育成を図る。
算数	<ul style="list-style-type: none"> 量感や数の見通しに課題がある。 時こくと時間を求める問題に課題がある。 文章問題など思考を要する問題に課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 算数的な活動を積極的に取り入れ、量感や数の見通しを育てる。 具体物を用いてイメージさせながら指導する必要がある。 問題で何を問われているかをしっかりと捉えてから、解けるようにすることが大切である。 	<ul style="list-style-type: none"> 算数的な活動を積極的に取り入れ、量感や数の見通しをもてるようにする。 思考力を高めるために、半具体物の使用や電子黒板の有効的な活用を考えながら授業をする。 文章問題では、題意を把握するために、問題を音読させ、「分かっていること」「求めること」を明らかにして問題を解く習慣を身に付けさせる。その際、既習の学習事項を生かした考え方を示したり、題意に即したテープ図の書き方を指導したりしながら、基礎的な知識や技能を身に付けさせる。

理科	<ul style="list-style-type: none"> 植物や昆虫の成長のきまりや体のつくりについて成長過程を比較しながら理解する事に課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 身近に見られる植物や昆虫の様子、体のつくりに興味・関心をもたせることや、成長のきまりと体のつくりなどについての見方や考え方を養うことが大切である。 	<ul style="list-style-type: none"> 昆虫と環境とのかかわりをとらえさせるために、自然園を活用したり、実際に育てたりする活動を通して、事象に対する興味・関心を高める。 差異点や共通点を基に問題を見出すことができるようにする。
音楽	<ul style="list-style-type: none"> 初めて取り組んだりコーダーの学習に大変意欲的である。しかし、運指や息の強さ、タンギングなどの基本的奏法の理解にはまだ課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 焦らず時間をかけ、できるだけ個別指導の時間を多く設けると共に、学習意欲を損なわないような指導の工夫が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> 教師が範例を示すだけでなく、運指、息の強さやタンギングについては、児童のよい範例を紹介し、友達のよいところを認め合いながら学習意欲を高めていく。 スモールステップで学習を進め、教師の言葉かけの工夫や楽曲教材の開発や工夫で更に学習意欲を高める。
図工	<ul style="list-style-type: none"> 身近な材料を使って自分たちの作品を楽しく表現することに大変意欲的である。しかし技術面では、道具の使い方を正しく身に付け表現することに個人差がある。 友達の作品を見たり、感じたことを発表したりすることに興味をもって取り組むことに個人差がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の発想を生かすことができるよう道具の基本的な扱い方や材料の工夫から表現できる指導を行うことが必要である。 作品を見て友達と感じたことを聞いたり話したりしながら、形や色、表し方の面白さに気付くことができる場面を設定することが必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> 計画的に各題材で材料や道具を扱い、以前に扱ったものについても、繰り返し取り扱い応用できる活動内容にする。 必要な技術は全体に向けてポイントを絞った指導をする。また、個別に教師の言葉かけを行い、全員がスムーズに作業を進められるようにする。 自分や友達の作品の良さを見つけ感じたことを伝え合う機会を増やし、よさを認め合い広めていく。また児童の意見を肯定的に認める言葉かけを増やし意欲を高める。
体育	<ul style="list-style-type: none"> ボール操作、投力に課題がある児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 個々の能力に適したためあてを決めて取り組むことが大切である。 	<ul style="list-style-type: none"> 投げる、捕る、(蹴る)、攻める、守るなどの動きを学習できるように工夫し指導する。授業の振り返りの場面で自分が頑張ったことや友達の頑張りを、技能のポイントなど、言葉を使って表現させたり、学習カードを用いたりして自己評価や相互評価を行う。また、運動に応じて、グループやチームでの活動を取り入れ、学び合いや励まし合う意識を高めていく。
総合	<ul style="list-style-type: none"> 初めて学ぶ学習であるため、総合的な学習の時間の学び方を身に付けるまでに時間がかかる。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校生活を振り返ったり、児童の身近にある地域の環境を活用したりしながら課題を見いだせるよう、指導計画を立てることが大切である。 児童が学習に主体的・協働的に取り組んでいけるよう指導の工夫をすることが大切である。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習する事柄を通して、児童が主体的に学び続けたり、学び方の基礎を身に付けたりすることができるよう、授業の導入を工夫したり、見学やインタビュー活動等、仲間と協働して課題を解決する学習活動を積極的に取り入れる。 教師が総合的な学習の時間の学び方(課題の設定—情報の収集—整理・分析—まとめ・表現)を理解し、年間の学習計画と総合的な学習の時間で学ぶ事柄を相互に関連付け、教科横断的な学習の基盤を作り、指導計画を立てる。
外国語活動	<ul style="list-style-type: none"> 児童が積極的にコミュニケーションを図れるようにするための手立てが課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> 誰とでも進んでコミュニケーションを図ることができるようにすることが大切である。 	<ul style="list-style-type: none"> 英語を用いた言語活動を通して、体験的に楽しみながらコミュニケーションを図れるようにする。段階的にめあてを設定し、歌やチャンツ、アクティビティの中で交流や動作等を取り入れて行う。学習のめあてや自己評価の振り返りカードも活用する。

	<ul style="list-style-type: none"> ・指導内容（コミュニケーション・異文化理解）のバランスの工夫が課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本時で扱う会話表現が、日常のどの場面で使うのかが分かるように、授業の工夫をすることが大切である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・1対1の対話・グループ内での対話など、対話の機会を多く取り入れる。また、会話表現を使ってアクティビティを行うときは、相手意識や目的意識をもたせ、日常の会話表現に近い状況を設定して行う。
道徳	<ul style="list-style-type: none"> ・登場人物の立場に立って心情を考えたり、理解したりすることに課題がある。 ・自分の考えを基に、気持ちを伝え合ったり、話を広げたり深めたりすることに課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教材を基に、多様な形式のものを用いて指導したり、動作化や役割演技など、表現活動の工夫が必要である。 ・中心発問から考えた自分の意見を基に、多様な意見や考えを教師が引き出す必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・興味・関心をもたせる教材提示の工夫や伝記・実話・物語・詩など、教材と並行した多様な読み物を合わせて指導する。また、動作化や役割演技などを通して、登場人物と自分との関わりで理解したり、自己を見つめたりできるような指導する。 ・授業の流れの中に、考えをまとめ・表現する時間を確保する。（ワークシート）机間指導の際に教師が補助発問をしたり、児童と対話し、考えを引き出したりする。 ・書くことや伝えることを苦手になっている児童は、友達の考えを聞くことも学習活動であることを伝えていく。 ・児童の振り返りを教師が見取り、道徳的価値に近い児童の意見を全体で共有し、価値の涵養を図っていく。また、教師の説話では、実生活や実社会と結びつく話題を取り上げ、道徳的価値を身近に感じられるようにする。